

授業 科目名	【G】	国際経済論 I	区 分	開講年次	【G】3	単位数	【G】2
	【EF】	特殊授業(国際経済論 I)	その他参照		【EF】3		【EF】2
科目区分	専門科目:【G】教科及び教科の指導法に関する科目(---公民-) / 【EF】教科及び教科の指導法に関する科目(---公民-)						
授業形態	対面授業						
担当形態	単 独	【G】 教員の免許状取得のための(---公民必修-)科目 【EF】 教員の免許状取得のための(---公民必修-)科目					
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項:「社会学、経済学(国際経済を含む。)」(高一種免公民)						
サブ タイトル	問題演習を通じて国際経済の仕組みを理解する			担当者	小川 竜明		
授業概要	【概要】	<p>これまで、本科目を履修する学生の多くが教員志望者や公務員志望者であった。そこで、過去に教員採用試験や公務員採用試験で出題された問題をいながら国際経済の理論を学習していく。過去問を使うことで、暗記が求められるキーワードや理解すべきものが明確になる。次の(1)~(4)を達成するため、授業開始までに各回の「ワークシート」にある問題を解いてくること(予習)を必須とする。</p> <p>(1) 問題を解く作業を通じ、「わかるもの」と「わからないもの」に分けることができる。</p> <p>(2) 授業では、予習の段階で「誤解していたもの」や「わかったつもりでいたもの」、「わからなかったもの」に重きを置いて説明を聞くことができる。</p> <p>(3) 「同じ間違いを繰り返さない」という復習の意味を見出すことができる。</p> <p>(4) 教員採用試験や公務員採用試験の出題方式や出題傾向を知り、対策を立てることができる。</p> <p>「本科目を受講して良かった」と心から思える秘訣は、これらを完遂し、高い学習効果を得ることに尽きる。</p> <p>なお、国際経済論 I では、国際収支、国際金融(外国為替)、貿易を扱う。</p>					
	【到達目標】	<ul style="list-style-type: none"> ・国内及び海外のさまざまな経済事象や経済問題について、自分の頭で考え、自分なりの答えを出し、さらにそれを自分の言葉で説明できるようになる。 ・物事を深く、且つ多面的に捉えられるようになる。 ・教員採用試験や公務員採用試験の出題方式や出題傾向を把握し、今後の学習計画が立てられるようになる。 					
履修条件	<p>真摯な姿勢で授業に臨む意志があり、且つ次の(1)、(2)のいずれかに該当する者。</p> <p>(1)教員、国家公務員または地方公務員(警察官、消防官を含む)を志し、採用試験に合格するためならいかなる努力も惜しまない者。</p> <p>(2)経済に関心があり、経済について限りなく深く分かろうとする気概を持つ者。</p>						
ディプロマ・ ポリシーとの 関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①	—	(当てはまらない)				
	DP(ディプロマ・ポリシー)②	—	(当てはまらない)				
	DP(ディプロマ・ポリシー)③	◎	(よく当てはまる)				
他科目との 関連性	<p>①あらかじめ履修を済ませてほしい科目:経済学 I、経済学 II</p> <p>②同時に履修することが望ましい科目:国際経済論 II</p> <p>③当該科目を履修した後で履修してほしい科目:特になし</p>						
教科書	教科書は使用しない。 予習用教材(ワークシート)や授業で使用する資料(問題の解説)は担当者が用意し配布する。						
参考書	<p>〈国際収支〉棚瀬順哉『国際収支の基礎・理論・諸問題』財経詳報社、2019年。</p> <p>〈国際金融〉西村陽造・佐久間浩司『新・国際金融のしくみ』有斐閣、2020年。</p> <p>〈貿易〉大川良文『入門 国際経済学』中央経済社、2019年。</p> <p>その他、授業内で適宜紹介する。</p>						
評価方法	<p>3分の2以上の授業回に出席したことを条件に、平常点(配点40)、中間レポート(配点30)、期末レポート(配点30)の結果を総合的に勘案して成績を評価する。</p> <p>・平常点は「振り返りシート」の提出(3点×13回、答案の出来により0点~3点を付与)。全て期限内に提出した者にはボーナスとして1点を付与。</p> <p>・中間レポート及び期末レポートは、授業で学習した内容に沿う形で応用問題(選択式・記述式)を出題し、正解数に応じて得点を付与。</p>						
フィードバック 方法	提出された「振り返りシート」の誤答に対してコメント付きで返却する。						
評価基準	<p>・授業内容について、これをよく理解し、答案等に自分の言葉で適切に表現できた者にはその程度に応じて「S」または「A」を与える。</p> <p>・単元の内容についての理解や表現に、何らかの不適切ないし若干不足する点がある者はその程度に応じて「B」または「C」とする。</p> <p>・単元の内容についての理解自体が不十分な者はその程度に応じて「D」または「E」とする。</p> <p>・なお、振り返りシートおよび期末レポートの未提出など、評価不能の場合には「F」とする。</p>						
その他	<p>・受講者の理解度等を考慮しながら進めていくので、授業内容は変更する場合がある。</p> <p>・新聞の経済欄に目を通すことを習慣とし、最新の経済動向を追うこと。</p> <p>・真摯に授業を受ける学生の志気を下げようとする行為(教室中に響く深い溜め息、大あくび、居眠り、私語、電子機器の使用等)を行った者に対しては退室を命じるなど、厳正に対処する。</p> <p>※G加:【選択必修(サ)】 / EF加:選択</p>						

授業 科目名	【G】	国際経済論 I	区 分	開講年次	【G】 3	単位数	【G】 2
	【EF】	特殊授業（国際経済論 I）	その他参照		【EF】 3		【EF】 2
授業回数	授業内容						
1	オリエンテーション(履修上の注意)、国際経済を学ぶ上での必須用語						
	予習:	ワークシート[1]の空所に入る適語を考える(120分)		復習:	ワークシート[1]の解き直し(120分)		
2	国際収支を構成するもの(経常収支、金融収支、資本移転等収支)						
	予習:	ワークシート[2]の問題を解く(90分)		復習:	ワークシート[2]の解き直し&振り返りシート[1]の作成・提出(150分)		
3	為替レートが変動する要因(1)—経常取引(インフレ率の差)、購買力平価説						
	予習:	ワークシート[3]の問題を解く(90分)		復習:	ワークシート[3]の解き直し&振り返りシート[2]の作成・提出(150分)		
4	為替レートが変動する要因(2)—資本取引(金利の差)、中央銀行の金融政策						
	予習:	ワークシート[4]の問題を解く(90分)		復習:	ワークシート[4]の解き直し&振り返りシート[3]の作成・提出(150分)		
5	為替レートが変動する要因(3)—投機取引(為替差益と為替差損)、外貨準備を用いた外国為替市場への介入						
	予習:	ワークシート[5]の問題を解く(90分)		復習:	ワークシート[5]の解き直し&振り返りシート[4]の作成・提出(150分)		
6	為替レートの変動が貿易(輸出、輸入)や国際収支に与える影響について						
	予習:	ワークシート[6]の問題を解く(90分)		復習:	ワークシート[6]の解き直し&振り返りシート[5]の作成・提出(150分)		
7	国際通貨制度の歴史(1)—ブレトンウッズ体制(固定相場制度のメリットとデメリット、ニクソン・ショック)						
	予習:	ワークシート[7]の問題を解く(90分)		復習:	ワークシート[7]の解き直し&振り返りシート[6]の作成・提出(150分)		
8	国際通貨制度の歴史(2)—キングストン体制(変動為替相場制への移行)						
	予習:	ワークシート[8]の問題を解く(90分)		復習:	ワークシート[8]の解き直し&振り返りシート[7]の作成・提出(150分)		
9	国際収支発展段階説、わが国の国際収支統計						
	予習:	ワークシート[9]の問題を解く(90分)		復習:	ワークシート[9]の解き直し&振り返りシート[8]の作成・提出(150分)		
10	世界の貿易体制—GATTの成立とWTO体制						
	予習:	ワークシート[10]の問題を解く(90分)		復習:	ワークシート[10]の解き直し&振り返りシート[9]の作成・提出(150分)		
11	地域的経済統合の諸段階(1)—自由貿易協定(FTA)、関税同盟(MERCOSUR)、共同市場						
	予習:	ワークシート[11]の問題を解く(90分)		復習:	ワークシート[11]の解き直し&振り返りシート[10]の作成・提出(150分)		
12	地域的経済統合の諸段階(2)—経済同盟(EU)、完全な経済統合						
	予習:	ワークシート[12]の問題を解く(90分)		復習:	ワークシート[12]の解き直し&振り返りシート[11]の作成・提出(150分)		
13	貿易に関する理論(1)—リカードの比較生産費説(比較優位の理論)						
	予習:	ワークシート[13]の問題を解く(90分)		復習:	ワークシート[13]の解き直し&振り返りシート[12]の作成・提出(150分)		
14	貿易に関する理論(2)—先進国と発展途上国の比較優位の違い(垂直貿易)						
	予習:	ワークシート[14]の問題を解く(90分)		復習:	ワークシート[14]の解き直し&振り返りシート[13]の作成・提出(150分)		
15	授業の総括(30分)と期末レポートの作成・提出(60分)						
	予習:	これまで学習した内容を反芻する(240分)		復習:	学習内容について理解を深める(継続して行うことが大切)		

科目コード B641-1-X